



◇アドルフ・ヒットラー◇

我ガ鬪争 (66)

【縮譯】マイン・カンフ】

しかも、フランス人は自己の血を急速に黒人の血と混交してゐるので、今やヨーロッパ大陸上にアフリカ人國家が創設されたといふことができる。

もしもかゝる事態が三世紀間も繼續したら、ライン河からコンゴー河に達する廣大なる地域に、劣等なムラット一人（黑白混血）國家の、一大植民地が出現するであらう。

舊ドイツの植民地政策は、フランスのそれとは全く違つてゐた。

しかし、この植民地政策もまた他の凡ゆる方面に於けると同じく、あらゆる點で生半可であつた。ドイツ人はアフリカに大規模な植民は行はなかつた。世界大戦に際し黒人軍をヨーロッパの戦場に連れて來ることは實質的であらう。

このやうにしてドイツは強くなる國々が偉大なる發展を遂げた時代に、義理の一路を辿つてゐた。

もしもナチ運動が歴史の責に輝かしい記録を止めんと欲するならば、ナチ黨はかゝるドイツの盲目的性に對して戰ひを挑まなければならぬ。我々は團結の術を解決し、世界に於ける最高の民族の天與の義務を凡て果さねばならない。

確かにドイツの國民は勇氣の點にも劣つてゐない。我々はその結果は、いづれにしろ甚だしき利益の少ないとであつて、たゞイタリヤの存在を確保するためには、アフリカの大人口と狹少なる國家領域との間の不均衡を以て、アフリカの國民を強化し、彼等を新しき領土へ導く如き方針を説いてゐる。それで、我々の現存の如き悲惨な國民にも劣つてゐない。我々はそのために、アフリカの血を流してゐる。それは過去においてドイツの流れした目標が誤つてゐたといふ。それは過去においてドイツ

一、主としてバイエルン人に重な戰利品が見出される——。

ヨーロッパ領土の振張に向

一、主としてバイエルン人に

ヨーロッпа領土の振張に向

一、主としてバイエルン人に

ヨ

